

・最近、支援学級が増加したのは、どう言う訳なのでしょう？

境界線上にいる子ども(大人)に、発達障がいの子どものレッテルを貼ることの弊害はないのでしょうか？

・何かもつと知りたいと思います

が、上手く表現出来ません。

・学校でのケースも考えてみたい

です。

・本場に良い勉強をさせて頂きました。ありがとうございました。

※ 今後どのような講座を望みますか？

・親業の講演・講座

・悩んでいる人の救いになるはず

です。又宜しく願います。

二月二日 「発達障がいの子どもと仕事体験」

今回は重藤先生のお話の他に、発達障がいの子どもを持つお父さんのお話を聞きました。

※高校三年生 長男

※よつばの会に出会うまで

※父として息子に思っていた事

※よつばの会に出会ってから

※仕事体験をして彼自身が感じたこと、できたこと

※発達障がいの息子に対して、二つの目線が必要

※今、そしてこれから

※親としての活動

※実際に体験しているお父さんのお話には胸を打たれました。

※ アンケートより

・Mさんのお話で、親の気持ち、接し方に対するとところが聞けてとても良かったです。ストレスの解消の方法はどう見付けるのかな？

経験・体験のみですか？

・子どもの視点に立つて考え、支援することが大切である事。わかっているつもりでしたが、再確認出来ました。

・とてもくわしく解説して下さい、とても良くわかりました。また、保護者の方の体験を話して下さい、とても良かったと思います。

・子どもの特性を理解し、伸ばしてやるために親が出来る事が沢山あるな、と改めて思いました。子どもの今の困りへの対応以外にも将来の為に出来る体験・経験の場を作ってやりたいと思います。

・発達障がいのお子さんに対する支援の考え方は、そうでないお子さんに対しても同じですね。長所を伸ばすように反省し直します。

・職業に就く前には、発達障がいの人でなくても、同じような心構えや準備が必要だと思えます。特別な事は、自分で決定する力が健常者より弱い様に思うので「うながし」や「気づき」が必要だと思

いました。就職口を見付ける事が課題かな？と思いました。

・サポートする側としての関わり方を体系的に教えて頂いて良かったです。また、親御さんの思い、仕事体験を通しての、子どもさん

の変化を知る事が出来た事もとても参考になりました。

・できたら褒める。手伝いがあっても出来たら褒める事の大切さ。よつばの会の活動について、Mさんのお話は解り易かったです。

・普通の人と同じではないか？と思う場合があること。外部サークル活動への参加をすると良いのではないかと思った。(個人競技・団体競技など)

・自分と子どもとの関わりはこう言うことだったのかと、フィードバックされたようだった。

・大変参考になりました。

・今7歳の孫ですが、将来のために今出来る事が知りたくて、この講座に参加させて頂きました。彼の目線で生活し、少しでも楽しい人生が送れるように頑張りたいと思います。両親は仲良く、孫とも仲良くしていただきますので、安心して

います。

・発達障がいと言う病名が付いているとはいえず、その程度の違いだけで、一般の人と変わらない、明確な線引きがある訳ではないと言うMさんのお話に共感しました。

1人ひとりの個性を知り、差別をしないと言う事が大切だと思います。多くの人が理解して下さいと良いですね。

発達障がいの人はコミュニケーションが苦手、岡輝公民館で「仕事体験」を引き受けているのを知りました。

・他の大人の人との関わりがこれほど大切だと言う事が解り良かったです。自分に必要なサポートを受ける事を、認める事が本当に重要な事なんだと思いました。しかし、なかなか本人にその事を理解して貰うのが難しい我が家の課題であります。本日はありがとうございました。

※ もっと知りたい事がありますか？

・ボトムアップのところを大きくしようと思うと、早期発見が必要なのかな？と思いました。出来る事を多く体験し、伸ばすところを見付けるにはどのようなサポートがいるのでしょうか？

・思春期になった時の色々な困り事への対応

・就労の現状、就労している方の体験談など聞きたいです。

・発達障がいかどうか、早くから分かることはないのですか？明確な境界が分り難いケースは、特にどうすればいいのでしょうか。親が早く気が付けばもつと違った対応が出来ていれば・・・今思います。

大人になつているので、診断を受ける事への配慮も必要と思いました。

※ 今後どのような講座を望みますか？

・広く地域の人達に知らせるための体験談は必要だと思う。